

〔 農 業 経 営 〕

集 団 ハ ウ ス 育 苗 の 経 営 的 意 義

宮田 忠男

(鹿兒島県農業試験場)

MIYATA, T.

Studies of Seed-growing for Early Seasonally Cultivated Rice in the
Plastic Film House by the Groups from the
Standpoint of Farm Management

本県においては南薩地域の二市においてビニールハウスによる早期水稻の加温育苗が集団的になされ、現在、本田植付の179haまでに普及（加世田市46.2%、枕崎市37.5%）しているが、その育苗の組織構成は兼業農家が大部分を占め専業農家と兼業農家、農協と専業農家という結びつきがみられる。このことから今後の稲作生産組織を考慮する場合に大きな意義があるものと考えられるが、それは 1) 委託育苗農家の大部分が兼業農家である。兼業農家が委託育苗によつて稲作生産の安定と有力化を図ることは

- ① 大きくは日本農業全体の立場より稲作生産維持の防波堤として作用するか。
 - ② 農地移動を抑制して専業農家の規模拡大を阻止するか。
- 2) 専業農家と兼業農家の結びつきが、
- ① 専業農家の育苗受諾が所得増大—資本蓄積—として営農進展に作用するか。
 - ② 請負作業、請負耕作、そして技術信託へと展開するか。
- 3) 省力化と技術統一が、
- ① 栽栽培技術の協定あるいは作業共同化への与件として作用するか。
- など経営的意義が展望される。

育苗方式

- ① 農協が組合員の育苗を受諾する方式
 - ② 機能集団が兼業農家の育苗を受諾する方式
 - ③ 農家個人が兼業農家の育苗を受諾する方式
- の三方式で請負育苗（事業主体側より）あるいは委託育苗（利用主体側より）と規定できる。

育苗方法

ビニールハウスに夜間加温（熱源はプロパンガスと電熱）をし、多段式の箱育苗を行なっているが、ハ

ス内での育苗期間は1週間でその後、苗を強健にするため硬化床にて1週間の育苗を行ない農家に配布している。

苗は14日苗（枕崎市では10日苗）が定植されるが、10a当りの苗の量は10箱の約1万本、苗代金は1650円～2000円である。

集団ハウス育苗のもたらすもの

① 品種更新と品種の統一

品種が三品種に限定され品種統一に向い種子更新は100%である。このことは玄米品質の向上や技術協定への前提として多面的な有利性が展望される。

② 作季型の統一と防除期などの統一

四作季型（普通期、早期、中期、二期）に入り乱れていたが、現在では二作季型に統一され個人防除の段階ではあるが防除期が自づと統一されるかつこうとなっている。

③ 育苗の省力化

従来の保温折衷苗代での10a当り（本田作付面積）所要労働は23.5時間であつたが、ハウス育苗においては4.1時間で育苗労働が $\frac{1}{6}$ に節減されている。

④ 育苗経費の節減

ハウス育苗での苗は10a当り1650円～2000円であるが、保温折衷苗代では労働費のみで2400円程度となりこれに諸経費を考えると相当の経費節減となっている。

⑤ 育苗受諾農家の所得への寄与

育苗受諾農家は出役に応じ1日当り800円の現金収入を得ている。

残された問題

- ① 集団ハウス育苗の適正規模
- ② ハウス育苗での経済的熱源
- ③ 育苗の事業主体
- ④ 施設の高度利用